盧・韓国大統領の国会演説（全文）

二十五日、盧泰愚韓国大統領が衆院本会議場で行った「変化する世界の中の新たな韓日関係」と題する国会演説の全文は次の通り。

韓国民主主義 後退ありえぬ

尊敬する衆議院議長、参議院議長、そして両院議員のみなさま、

私は大韓民国の国家元首として、歴史上初めて日本国会の演壇に立てたことを光栄に思っています。

それは、この議事堂が過去百年間の日本における議会民主主義の発展の場であり、みなさまがまさに世界で最も繁栄した民主国家を達成した一億三千万の日本国民を代表しているからです。

私がこの演壇に立つまでには、韓日両国と東洋の将来に思いを馳（は）せた多くの先覚者の夢と犠牲、時代の激浪がありました。

韓日両国が互恵平等と真の善隣友好を享受する日を胸に描いた、これらの先人たちの悲願が実現できるよう歴史が進展してきたのに対し、私は感謝と深い感慨を覚えます。

今回、私に演説の機会を与えて下さった衆参両院議長、与野各党の指導者と議員のみなさまに謝意を表し、韓国国民が日本国民に送る温かい友情のあいさつを伝えます。

私は韓日両国が相互尊重と理解に基づいて、今後近くて近い同伴者にならねばならないという信念を持って日本を訪問しました。

二十一世紀を目前にした世界の激変のなかで、隣接したわれわれ両国は未来志向的な関係を開くべきであるとの衷情から、本日私は忌憚（きたん）なき見解をみなさまに披露する所存であります。

第二次大戦の終戦と同時に韓日両国はおのおの新しい国づくりに励みました。それからすべてのものが変わりました。われわれ両国国民は変化とともに大きな成就を得ることができました。

日本国民は戦争の廃虚の跡に、世界の驚異の的である経済大国を建設しました。日本は科学技術でも世界の先頭を進む国家になりました。

かつてヨーロッパで育った資本主義と議会民主主義の精神が、ただいま遠い東方のここ日本で開花しています。

十九世紀後半に西洋文明が押し寄せたころ、東洋の先賢たちは東道西器（和魂洋才）を語り合いました。

日本はいまや西洋を追い越えるという望みを叶（かな）え、日本の伝統文化に西洋文化を融合する独創的努力を続けながら、新しい文化を誇る国家になりました。

私はこの偉業を成した日本国民と指導者たちに敬意を表します。

四十五年前、植民地統治から解き放たれた韓国国民の喜びはある日とつぜん国土分断の悲しみに変貌（へんぼう）しました。それ以降わが民族は試練の道を歩まねばなりませんでした。

一九五〇年六月二十五日未明、北韓軍の全面南侵によって、戦後世界を対決状態にさせた冷戦が韓半島で熾烈（しれつ）な戦争となって爆発しました。三年におよんだ戦火は数百万の無辜（むこ）の生命とわれわれの財産を根こそぎ奪い去りました。

一九六〇年代初頭に本格的な経済開発に着手したわが国民は、東京オリンピックの壮観を羨望（せんぼう）のまなざしで見守りました。

日本の発展はわが国民に自信と勇気を呼び起こしました。韓国国民は受難と失意を踏み越えて立ち上がりました。資源も、資本と技術も貧弱だった韓国の開発には多くの困難と挑戦が伴いました。しかしわが国民はけっして挫折しませんでした。

一世代にわたる血と汗のにじむ努力で韓国はいま新興産業国家に発展いたしました。

わが国民はソウル・オリンピックを十二年ぶりに東西世界が一堂に集う平和の祭典として立派に成し遂げました。三十八年前、二十カ国の若人が銃火を交え血を流したその紛争の地で全世界の若人たちが手に手を取ってお互いを分かつ障壁を乗り越え和合の広場で技を競い合いました。

大きな試練から立ち上がったわれわれの成就は、暗い歴史に対する高価な勝利でした。

韓国の急速な発展が数多くの開発途上国家や社会主義諸国のひとつの見本になっていることに対して、また冷戦による対決と戦争に苛（さいな）まれてきた国が人類の和に貢献する国になったことに対して、わが国民は限りない誇りを感じています。

わが国民のもうひとつの誇りは民主主義の時代を開いたことです。

約四十年近い政治的波乱の中でも、自由と民主主義によせる韓国国民の熱い念願と闘争は絶え間なく続きました。三年前の「6・29民主化宣言」を出発点に、韓国の新しい時代は言論と政治的自由を無制限に開放しています。韓国の民主化は憲法と制度はもちろん、社会の価値体系と国民意識に至るまでを大幅に変えてしまいました。

いま過去の尺度では今日の韓国は理解できなくなりました。

私は民主主義を行うことが実に困難だという体験を、議員のみなさまに率直に話しかけたいと思います。

詩人韓龍雲（ハン・ヨンウン）先生は「私があなたを愛するのは……他の人は私の紅顔、私の微笑だけを愛するけれど、あなたは私の白髪さえ……私の涙さえ愛するため」であるとうたいました。

暗い時代を生きたこの詩人の祖国愛のように、民主主義も憎しみまでを愛する心で根を下ろさなければならないと私は信じています。

民主主義が何でも解決できる制度であるとは速断できませんが、人間を人間らしく社会に同化させ、創意と発展を可能にするのは民主主義しかないからです。

さらに普通人たちが主人になって遠慮なく参加し、かれらの夢を育（はぐく）む偉大な時代は民主主義のなかでのみ可能であると私は信じます。

韓国の民主化は大きな代償を支払いましたが、正しい方向に進展しています。韓国の民主主義が後退することは決してあり得ないでしょう。

自由と民主主義に対する信念を本日みなさまと共に分け合うのは私だけでなく、韓国国民すべての生きがいであり喜びにほかならないのです。

議員のみなさま、

第二次大戦の砲声がやんだその時からわれわれ両国だけではなく、世界もおびただしい変化を繰り返しました。

新しい世紀を十年先にした現在、われわれはこの世紀を締めくくる変革を迎えています。葛藤（かっとう）と対決が支配してきた冷戦の歴史が退潮して、新たに和解と協力の波が世界の方々に満ちあふれています。

自由と繁栄へ向かう人間の熱望がベルリンの障壁を壊し、東西世界を分かつ鉄条網を撤去しました。

ソ連は改革の大きな波間にあり、東ヨーロッパの硬直した体制はたて続けに崩壊いたしました。

ヨーロッパ共同体は経済的統合を超えて政治的統合に向かっています。東ヨーロッパの変革で「統一ヨーロッパ」の領域はソ連の国境に至るまでの全ヨーロッパに拡大されていくでしょう。いま人間の尊厳性と自由、多元的民主主義は人類の普遍的価値になりつつあります。

この世界的な大変化は古い理念と体制はもちろん、過ぎた時代のあらゆる壁と国境さえ壊しています。

冷戦体制後へ 共同努力必要

議員のみなさま、

世界のこの大きな変化は挑戦を伴っているのです。

われわれは冷戦体制に代わる新しい秩序を待望していますが、それはいまだ不確実性のカーテンの中に隠れています。今日の世界には平和と和解を目指した念願が充満し理性が力の論理を支配しつつありますが、世界秩序として形成されるまでにはさらに遠い道程を歩まねばならないでしょう。

軍縮が進展を見せていますが、核兵器が人類の文明を一瞬にして破壊できるという恐怖は取り除かれてはいません。

世界経済の将来にも不安が敷延され、この世界に前時代になかった繁栄をもたらした自由貿易も挑戦を受けています。世界貿易の不均衡は保護貿易の傾向を濃くし、貿易摩擦は深化されつつあります。

地域ブロック化の憂慮も排除できません。

われわれは統合ヨーロッパが開放へと進展することを望んではいますが、その逆の可能性はだれひとり否認できるものではなく、今後の世界でヨーロッパとソ連の行方はわれわれすべてと無関係ではないでしょう。

これらの変化と挑戦を眺めれば、われわれ両国の共同努力がいかに重要であるかを痛感いたします。

日本はただいま世界最大の援助国になりました。われわれは「富国の責務」を履行しようとする日本の努力を高く評価します。「世界に貢献する日本」はたんに経済面ばかりではなく、人類の普遍的価値を先頭に立って実現する国家になることを意味するものでありましょう。韓国もまた自らの能力にふさわしい責任を果たし寄与するつもりでいます。

議員のみなさま、

韓半島に平和と統一を招くことはわが国民の至上課題であり、世界とこの地域の安定に尽くすわれわれの最大の使命であります。

過去百年を通して韓国のように侵略と戦争、対決体制で苦痛を甘んじた国はまれでしょう。平和は韓国国民の悲願であります。われわれは平和を得ることで、世界がわれわれに与えた試練に答えようとしています。われわれは韓半島の平和的統一を今世紀中に必ず遂げようとしています。冷戦体制の他律による民族の分断状況を次の世紀まで引きずることはないでしょう。

衆院本会議場で行われた盧泰愚大統領の演説
＝25日午前9時45分

実現不可能であると思えた東西ドイツの統一がいまや現実になったように……戦争の危険が存在している分断の地で人類和合のオリンピックが開かれたように……韓半島に統一の日が必ずおとずれるでしょう。

世界にあふれる和解の流れにもかかわらず韓半島の休戦ラインは凍土として残っています。

われわれはこの厳しい現実をだれよりもよく理解しています。

しかし北韓にも遠からず変化がおとずれ、北韓は開かれた世界に登場することでしょう。われわれは、そのためにあらゆる努力を尽くす覚悟でございます。

北韓はこれ以上われわれと敵対する相手ではなく、同胞として共に繁栄を築く同伴者とならなければなりません。

われわれは決して北韓の孤立化を望んではいません。

ひとつの民族である南北韓は民族共同体として自主、平和、民主の原則のもとに統一を成し遂げるでしょう。

世界の急激な変化と統一によせるわが民族の切なる願いを思うとき、南北関係に転機がおとずれれば民族統合の道は急速に開かれることでしょう。

韓国は昨年以降、東ヨーロッパ諸国と外交関係を樹立し、ソ連、中国とも関係の改善を図っております。

われわれの北方政策はそれら諸国との相互繁栄だけでなく、南北の関係改善と統一の条件を整えるためにも寄与することができるでしょう。

韓半島に平和と統一がおとずれる日、東アジアと世界にも真の平和がおとずれるのです。

議員のみなさま、

私はベルリンの壁が崩壊した直後の昨年十一月に東西ヨーロッパ諸国を訪問し、自由と平和、開放と繁栄を目指す歴史の大きな流れを実感いたしました。

その変革の現場で私は韓半島と東アジアの将来に深く思いをめぐらせたのです。

われわれの住む東北アジアは、過去百年間、五回にわたる大きな戦争を経験しました。

戦後、この地域の平和を守ってくれたのは力の均衡でした。

新たな和解の動きに従って、この地域ではいま超強大国の役割調整と政策の変化が論議されています。

この地域の恒久的な平和と協力のための構造的な変化が現実となるまでには、多くの変数を必要とします。

今後、韓日両国は東北アジアの平和と繁栄のために本格的に努力を傾けていかなければならないでしょう。

私は一九八八年の国連総会で「東北アジア平和協議会議」を提案いたしました。

この協議体の実現には北韓の態度の変化等、政治的条件の成熟に時間を要することでしょう。

しかしそのために可能な国、可能な分野から共同利益を実現させるよう協力関係を発展させていかなければなりません。

北東アジア諸国間の協力は、アジア・太平洋時代の明るい未来を開く原動力になるはずです。

アジア・太平洋地域が新しい世紀の世界文明の中心になるであろうとの予言は以前からありましたが、われわれはそれが現実になりつつある時代に生きています。

この地域には無限の潜在力と活力が噴出しています。

国際政治の多極化と地域的な統合の動きから見て、ここに共同体関係を発展させることは時代的な流れであると考えます。

日本と韓国の二十一世紀もアジア・太平洋の平和と繁栄に直結しているのです。

韓日両国は同伴者として先頭に立ち、太平洋時代を開いていかなければなりません。

そのためにわれわれはこの地域の開放性と多様性を基盤に、あらゆる国々を援助する効率的な協力の分野を築かなければならないのです。

いま両国の関係は、両国間の課題だけにとどまらず、アジア・太平洋の努力の土台であるとともに、その核心的な役割となることでしょう。

貿易不均衡の 改善措置望む

議員のみなさま、

韓日両国が新たな国家建設に着手してから四十五年、両国関係も大きく変化しました。

国交正常化以来四半世紀の間、急速に発展してきた両国関係が相互依存的であり、お互いに恵沢をもたらすものであったことは、われわれみなが確認してきたところであります。

経済ひとつをとってみても同様です。

韓日両国はお互いに米国に次ぐ第二の交易国となりました。世界の十大交易国の一員となった韓国は日本企業にとって年間百七十億㌦の市場です。

二十五年前、日本の対韓輸出がわずか二億㌦であったことを考えれば、韓国の発展は日本の繁栄にも寄与するものであるということがうかがえます。

繁栄する国家が近くにあるのは日本の将来のためにも望ましいことです。

韓国の発展は東アジア経済圏の地位を強化させるでしょう。

このような次元から、交易と経済協力が今後も拡大強化されるようみなさまが協調してくださることを希望します。

韓日間には慢性的な貿易不均衡の問題があります。

日本は米国とヨーロッパに対し、市場開放と貿易不均衡改善のための努力を傾けています。

韓国に対しても、そのような政策的な意図で不均衡を実質的に改善するための措置を取っていただきたく存じます。

日本が競争のために、技術移転に消極的であるとの指摘もございます。

海外市場における韓国の輸出増大が、日本企業に多少の競争を強いている面もあるでしょう。

しかしそれは皮相な見解であり、日本からのより多くの輸入が誘発されてきました。

韓国の経済発展が日本の国家利益に合致するという認識のもとに、日本の技術移転と基礎科学協力を促進してくださるようお願いいたします。

両国関係の発展は、たんに経済分野に限っただけのことではありません。

年間二百万名の国民が両国を訪問しあっています。

政治、経済、社会、文化等あらゆる部門で国民間の交流と協力が目覚ましく増大してまいりました。

若い世代の交流が拡大し、両国お互いを理解しようとする研究と熱意が高まっています。

いまこそ両国関係は政治、経済的協力の次元を超え、各分野のあらゆる国民が交流、協力する包括的な善隣友好の時代へと移行されなければなりません。

過去の束縛を 断つこと可能

議員のみなさま、

さまざまなものが変化し、多くのものが発展したにもかかわらず、両国民間の真の友情を阻む心の壁は依然として残されたままです。

戦後四十五年が過ぎ、世界大戦を経験したヨーロッパ諸国がひとつの共同体を築きあげている現時点まで、われわれ両国民は不幸だった過去に対する認識と感情を整理できずにいます。

去る時代のしこりが両国関係発展の障害となっているのです。

小学校に入ったばかりの韓国の児童が、学校で日本式の名前ではなく自分の名前を使ったり、母親から教わった自国の言葉を使ったりしては先生から鞭（むち）打たれなければならなかった痛みをみなさまは理解できないと思われます。

過去の暗い時代、わが民族が味わったより大きな苦痛と試練、その想像の及ばなかった悲劇をいま、この席でお話しする必要はございません。

今日、われわれは国家を守ることのできなかった自らを反省するのみであり、過去を振り返ってだれかをとがめたり、恨んだりしようとは思いません。

私がみなさまに申し上げたいのは、両国民の真実に基づく真の理解であり、それを土台として明るい未来を開くということであります。

フランス人、ドイツ人、イギリス人がひとつのヨーロッパ人となっているのは、かれらが真実の力で過去の過ちをはっきりと洗い流し新たな歴史の創造に共に乗り出すことができたからなのです。

過ぎ去ったことは神でさえも変えることはできません。

しかし歴史は現在のわれわれが過去をどう考え、どう理解するかの問題です。

つまりわれわれの行動次第で過去の束縛を断ち切り、過去のしこりを消し去ることができるのです。

われわれみなの勇気と努力が必要であるだけです。

これに関連して私がこの席で特にみなさまにお願いしたいことは、過去の歴史によって日本に居住することになった七十万の在日韓国人の問題です。

かれらは日本人と戦争の苦痛を共にし、戦後日本の再建と発展に参画しました。

かれらが親しい隣人として何の不便もなくこの国で暮らすことができるとき、両国民は韓日友好を胸に感じとることができるでしょう。

ただいま日本は過去の日本ではなく、新しい日本として生まれ変わりました。

歴史と世界に対して開かれた日本は、アジアと世界の認識を新たにしてくれることでしょう。

議員のみなさま、

晴れた日に釜山の海辺に立つと水平線上に対馬の島が見えます。日本からは釜山の灯が見えるでしょう。

歴史が記録される以前、その遥（はる）かな昔から今日に至るまで、両国の人々はこの狭い海峡を渡り最も近い隣人として交流してまいりました。

韓半島の古代文物が日本列島に渡り、日本の近代化の波が韓半島におし寄せたのです。

朝鮮通信使は徳川幕府による鎖国政策にもかかわらず江戸に入ることのできた唯一の外交使節でした。厳原から江戸に至る遠い道程は友情の出会いによって開かれました。

両国間の不幸であった時期は友好善隣の長い歴史を通して見れば、相対的に短い期間でありました。

日本には「流れた水は水車を回せない」という諺（ことわざ）があります。そうです。しかし水車を回す新しい水は絶えず流れてきています。わが両国間の善隣友好の時代はこのようにして再び開かれるでしょう。

日本人が大切に培った茶道には古代韓国陶工たちの息吹が宿る茶器と、日本民族の清らかな精神と道が調和を成しています。

ここにはいかなる民族の優越意識も、いかなる民族の被害意識も存在しません。ただ美しい調和の中で発見できる生命があるだけです。真の隣人とはまさしくこのような関係を指すものではないでしょうか。共通の理想を分かつわが両国はこのような関係の上で世界へ、未来へと手に手を取って進まなければなりません。

近くて近い隣人として、信頼し合う友人として、より平和で繁栄に満ち、自由と[illegible]れる世界を共に創造しましょう。

来る世紀には東京を出発した日本の青年が海底トンネルを通過して、ソウルの親友といっしょに北京とモスクワに、パリとロンドンに、大陸を結び世界をひとつにつなぐ友情旅行を楽しむ時代を共に創造しましょう。

ありがとうございました。

〈注〉盧大統領の演説のなかで、「北韓」とあるのは朝鮮民主主義人民共和国、また「韓半島」とあるのは、朝鮮半島を意味する。